

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190401158		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・発寒 (さつき館)		
所在地	札幌市西区発寒15条1丁目2番8号		
自己評価作成日	令和 4 年 2月23 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 6月16 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190401158-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190401158-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和 4年 4月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットが9名、1ユニット6名の3ユニットの事業所で、閑静な住宅地に位置し、事業所の向かいには公園、周辺には保育園や小中学校があり、春から秋にかけて地域の方とも触れ合う事ができる最適な散歩コースとなっています。各ユニットフロア内は、フロア全体を見渡せる対面キッチンで入居者様と一緒に作業を行える環境で、入居者様の状態に応じたレイアウトができる共用スペースのリビングは広く、それぞれのユニットごと床の素材や扉の色にも違いがあり、居室やトイレのクロスもお洒落感が際立つ作りになっています。各ユニットでは、毎日の日課の1つとして、ご当地体操を取り入れ、楽しさを加えた身体機能維持に努めています。今年度からは、運営法人が変わったことで、数多くの事業所が加わり、より事業所間の繋がりが持てるようになった事で、情報の共有を図りながら新しい研修のスタイルを確立していくことで、職員のスキルアップを図り、技術の向上に努め、入居者様一人ひとりその方らしい生活を送ることができるチーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅地にあり、近くには公園やコンビニ、保育園、小・中学校等があり生活環境に恵まれている。令和2年より九州福岡に本部がある母体法人に代わり、新たなサービスの向上、職員の質の向上に努めている。木造2階建ての1階に2ユニット(さつき館・つつじ館)、2階に1ユニット(あじさい館)の事業所だが、コロナ禍により定期的な換気や温・湿度等を適正に管理、アルコール消毒を施しながら、利用者の安心安全に努めている。事業所は年間の予算付けを行いながら行事食や誕生食、月1回以上の出前(中華オードブル、うな重、チラシ寿司等)、専門店の弁当、敷地内でのバーベキュー等を提供しながら、利用者に食事の楽しみを支援している。利用者の高齢化に伴い介護度も上がっているが、職員の8割以上が介護経験年数が5年以上あり、利用者との意思疎通や親切で丁寧なケアを実践しており家族から感謝の言葉をいただいている。コロナ禍により外出が制限されている中、職員は明るく優しく利用者に接し、利用者個々の健康状態を把握して、ご当地体操やボールゲーム、カルタなど、無理強いしないようにして、機能訓練や「自発性」を引き出すケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホール内に掲示し、皆が理解し実践に繋がっているようにしている。	管理者と職員が作成した事業所理念と法人の運営方針を各ユニットのスタッフルームに掲示し、職員は研修会やミーティング等で理念を理解し、利用者のサービスに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナの影響で、今年度は地域との交流は実施出来ておりません。	町内会に加入しており、毎月発行している町内会報から町内会行事等の情報を得ている。町内会総会の連絡や敬老の日には記念品をいただいている。住民からは利用者用のオムツや手作りの籠、巾着の差し入れが有り交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で、今年度は難しい状態でした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議は、コロナ禍の為、施設内で奇数月に開催しております。	書面会議として各ユニット管理者が出席し年6回開催している。活動報告やコロナ情報、避難訓練予定、事故報告等をまとめた議事録と「グッドケア発寒通信」を既存委員に発送し、意見や要望を得て運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍ではありますが、市の介護保険課や生活保護課と必要に応じ、電話連絡にて情報共有をしています。	空室情報や事業所の状況を市担当者に報告したり、コロナ関連の情報交換、申請や継続手続き等を行いながら、助言や指導を得て協力関係を継続している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年4回実施し、スタッフに周知している。又、月1回のユニット会議内でも都度情報共有している。	「身体拘束適正化委員会」を3か月に1回開催し、得られた資料を基にユニット会議でスピーチロックや拘束の弊害等を学びケアに反映させている。家族の了解を得て人感センサーやセンサーマットを使用している。玄関はオートロックになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び、虐待防止マニュアルがあり職員はいつでも手に取り目を通す事ができる。また、職員間で疑問や不安に思ったことは都度話し合っている。		

グッドケア・発寒（さつき館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの影響で研修などには参加出来ておりませんが、個々にあった支援が出来るように話し合いの場を持ち、支援出来るように行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容は、口答と文書で説明している。また不明な点があった場合は、職員が24時間滞在しているので改めて説明することや上司につながる事ができる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で中々各家族とも会える機会はありませんが、必要に応じ速やかに連絡を取り利用者様にとって、より良い環境作りが出来るように努めている。	利用者からは、日々の暮らしの中で意向や希望を把握している。家族とは面会制限の中、訪問時に事業所玄関先で話を聞いたり、電話連絡時等を活用しながら意向や要望を聴取している。得られた意見や要望を記録し、申し送り時に周知させケアに反映している	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ユニット会議を開催し職員の意見を聞き、具体的な課題や問題を解決している。	管理者は会議や日常の中でいつでも意見や気付きを自由に発言できる環境を作っている。年2回の人事評価を行い、職員の意見や希望を把握し、事業所や法人で検討しながら、採り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時に勤務状況や、労働時間などについては説明の場を設け、勤務後はユニット事で働きやすい環境整備を行い、不明点なども毎度確認出来るような雰囲気作りを心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修は行えていませんが、ユニット内で個々にスキルアップ出来るような環境作りを努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で今は交流出来ていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談などを行い、職員間で情報を共有しながら都度、対応を行い、不安なく過ごしていただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者や管理者が、入居前に面談などを行いました、家族の来訪時や電話での対応で不安な気持ちの払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画作成時に、本人及び家族の意向を把握し、今一必要なサービスは何かを検討し実践につながるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の入居前の暮らしの状況を把握し、テーブル拭きや食器拭きなどその他の家事でもご本人の出来る事を職員と一緒に活動できる場を毎日設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦で面会はなかなか出来ていないが、入居されている大半の家族は協力的で、都度連絡を取り合い職員と協力し共に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等、制限がない入居者に対しては自由に接して頂いていたが、現在はコロナの影響で難しい状況なので、電話での会話が可能な方は電話やテレビ電話で会話されている。	コロナ禍の中、事業所で出来る範囲として玄関先を利用し家族からの差し入れや家族からの要望を聞き取り、利用者は家族にスマホの利用や窓越しやテラスからの顔見世などを行っている。利用者の散髪は2ヶ月に1回訪問理容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には、自由に入居者同士の関わり方を尊重している。それぞれの関係性や性格を把握し、職員が間に入りよい関係性が保てるように努めている。		

グッドケア・発寒（さつき館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、いつでも連絡を取れるような体制はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の想いを尊重し、本人の意向で生活の支援が出来るように努めている。	日々の関わりや本人の行動、また、家族からの意向を把握するよう努めており、把握したことについては、会議等を通じて職員全員に周知し共有化を図っている。意思疎通が困難な時は動作、表情などから汲み取り職員間で推察するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族等からの情報を伺い、また、本人から聞き取れた情報等は全職員、申し送りノート等を活用し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人のケース記録に記入し把握している。また、都度申し送りにて状況をスタッフに伝えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が、モニタリングや短期及び長期目標評価やケアプラン原案を作成し計画作成者と共同で介護計画を作成し、月1度のミーティングで再度、出席職員と討議し作成している。	利用者や家族の希望を聴き、居室担当する職員の気づき等も参考にして、暮らしに反映できる介護計画が短期6カ月、長期1年で計画作成担当者により作成され、家族に説明し同意を得ている。状況変化時には新たに計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況はケース記録に記入し、特記事項や通達事項は、朝の申し送りや連絡ノート等を活用し伝達・周知し各居室担当が把握するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で浮かんできたニーズは、職員で足りることなら率先し提供している。また、家族のニーズも面会時等に汲み取り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響で難しい状況にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居により、今までのかかりつけ医との関係が途切れないよう、支援したり、かかりつけ医のいない等の場合は、隔週で訪問診療を提供している。また、必要に応じて他機関への受診にも対応している。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受診している。協力医は2週毎に往診を行い歯科医も月2回往診している。看護師が週2回訪問し利用者の健康管理を支援している。予防接種は事業所で行い、薬局で利用者の状況に合わせ一包、分包装し、専用棚に保管している。	

グッドケア・発寒（さつき館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が現在、週二回訪問し、その報告書を元に口答により具体的に伝え相談している。また、必要な場合は受診などの支援にもつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各利用者の担当者や管理者等から、医療機関へ速やかに情報を提供したり、報告・連絡・相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の心身の変化を受け止めチームとしてどのようなケアが必要か考慮し、カンファレンス等を通して全職員共有事項としてケアプランに反映してケアの実施をしている。	入居時に利用者と家族に「重度化した場合における指針」を説明し、利用者と家族の同意を得ている。重度化した場合は家族と話し合い、主治医の指導を受けケアに反映させ、希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置場所を全職員で把握し、使用方法についても口頭で伝えているが、コロナ禍の為、研修が出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	AED設置、使用方法をコロナ禍の為、資料での研修を行っている、施設内での利用者の病状の理解、急変時の対応は、マニュアル活用、状態に応じ、随時実践に繋げている。	夜間想定した火災避難訓練を年2回、水害を想定した訓練を年1回を実践している。災害マニュアルは整備されており、3日分の飲料水や米、缶詰等の食料品やカセットコンロ、照明、ポータブルストーブ等を備え、備蓄品リストは都度更新している。	利用者家族には避難訓練の予定を運営推進会議議事録として報告されているが、今後議事録に訓練内容や今後の訓練方法、結果報告（消防署の講評含む）などを含めた内容を反映させる事に期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム理念にも掲げられ、日々の業務の中で実践している。また、何でも言い合えるようなチーム作りを行っている。	プライバシーや個人情報は入所時に利用契約で説明し同意を得ている。ユニット会議や研修会でスピーチロック、接遇マナー、プライバシー保護を学びながら日々のケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人を良く観察し、今何がしたいか、言いたいのか等の訴えを察する事が出来るように職員間で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・就寝時間日中の過ごし方などは個々で違っているので、出来るだけご本人のペースに添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後等に、本人持ちの化粧水や乳液等を提供したり、その時にどんなものが着たいのか等を確認できる利用者には伺って支援している。		

グッドケア・発寒（さつき館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお盆拭き、食器拭き等を一緒に楽しみながら毎日行っている。	メニューは本部の栄養士が決め食材は業者が納入し職員が調理している。誕生食や行事食として出前や弁当、利用者の希望を聞きながら配食を変更して楽しい食事の支援をしている。また、利用者の能力に合わせ後片付けなど調理参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の考えた食事メニューの食事を毎食提供し、食事量や水分量等は毎日記録にとり、場合に応じて主治医や訪問看護師へ報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声かけや一部介助のもと口腔ケアをおこなっている。また、ほとんどの入居者様が訪問歯科を利用し定期的に口腔内の衛生管理をしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、トイレの間隔の長い方には声かけを行い、また紙オムツ使用の方でも日中はトイレで介助にて排泄して頂いている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表により排泄パターンを把握して、日中は何気ない声かけを行ない、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。紙おむつの使用・ポータブルトイレの利用など、状況に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後に、牛乳や水分を提供したり、ケアプランに基づいてホール内歩行の運動を提供している。また、毎日午前中にやまべい体操を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3日で入浴できるよう支援している。	週2回の入浴を基本とし、利用者の希望に合わせていつでも入れるように支援している。状況に応じて2人介助や同姓介助などの支援やシャワー浴など要望に沿うようにしている。入浴拒否者には、声かけする人を変えたり、翌日に変えるなど工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、いつでも安心して自由に休息出来るように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が薬の管理を行い、毎日職員が薬のセットを行っている。また、薬の変更などのあった時は、連絡ノートなどに都度記入し全スタッフが把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式等から読み取った情報や本人から聞き取った情報を元に、一人ひとりにあったユニットでの役割を提供している。ペランダで、プランター使用の家庭菜園で育つ過程や収穫の楽しみ繋げられる支援に努めています。		

グッドケア・発寒（さつき館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの影響で難しい状況ですが、天気の良い日はベランダでの外気浴等で気分転換をしていただける環境を提供した。	コロナ禍の為に今迄の外出支援は自粛している。そのため、利用者の健康面や気持ちを考えながら、ベランダに出て日光を浴びたり、室内ではレクリエーションや体操、歩行等で体力の維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況により少額のお金を所持されたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が希望された時に、職員や利用者自ら電話をかけられる支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるように飾り付けを変えたり装飾を施している。また、食事の際はTVを消し、落ち着いた雰囲気を楽しめるように音楽やラジオをかけている。	共用空間の居間や食堂はコロナ禍により定期的な換気と温度・湿度を適正に管理しながら、利用者に安全に気持ちよく過ごせるよう努めている。季節感ある飾り付けや行事の写真等を掲示し、家庭的な雰囲気を醸し出すよう工夫している。利用者は好みの場所でテレビなどを観賞し穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはご本人の好きな場所で過ごしていただき、その時により談笑されたい方や、一人で過ごしたりゆっくりされたい方の様子を察し、過ごしていただける場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者は、以前から自宅で使用されていた家具等を持ち込まれ過ごしやすい配置にされている。	電気暖房パネルとクローゼットが備え付けられている。自宅で使っていた馴染みの単筒を持ち込んだり、家族の写真が飾られるなど、利用前の暮らしが思い出せるようになっている。できる限り思い思いに過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室のドアに、張り紙をして分かりやすいよう掲示している。		